

湿原が形成されるまで

縄文の海進

人々は 10,000 年以上も前の石器時代から釧路に定住し始めたと考えられています。海面が上昇して古い釧路湾の一部が形成され、低地に水がたまり海岸線が内陸へと移動したおよそ 6000 年前、現在の湿原は海面下にありました。これが縄文時代（12,000 年前頃から 2,400 年前頃までの期間）の名を冠して縄文の海進として知られる地質的現象です。東釧路および台地の東側の細岡では、アサリやカキなどの貝塚が発掘され、有史以前に人々が住み着いていた痕跡が認められます。

釧路湿原の誕生

約 4,000 年前の縄文中期には気候が寒冷化して海が退却し始めました。その結果、河口付近に砂丘が形成され、この一帯が海から完全に切り離されました。約 3,000 年前、昔の釧路湾が塩分を含んだ沼地へと姿を変え、今日の釧路湿原の基礎を形成しました。その後、西側の湿地帯は隆起し、東側は沈降し、釧路川と小さな海跡湖を台地の東側沿いに残しました。この地域にはたくさんの遺跡があります。

擦文文化

弥生時代（紀元前 300 年 – 紀元後 300 年）には中国から日本の本州に稲作が渡来しました。しかし、北海道に住む人々は続縄文時代と呼ばれる時代も狩人、漁師、採集民としての暮らしを続けました。その地理的条件と文化的伝統から、北海道は続縄文時代を経験した日本で唯一の地域でした。続縄文時代は後に擦文文化（紀元後 700 年 – 1200 年）となり、最終的にアイヌ文化の誕生に至りました。擦文文化は本州の平安時代（紀元後 794 年 – 1185 年）と一致します。擦文の人々は本州文化の影響を色濃く受けており、例えば、四角い竪穴住居に住み雑穀や鉄器を使用しました。土器を制作して暮らした最後の時代でもありました。